

## 【ファシリテーターの活動状況】

### 第4回 地域包括ケア専門職“絆”研修 ③終末期支援「看取りの時期」

■ 日時 令和元年12月15日（日） 9：15～12：20

■ 場所 東部医師会館3階研修室

◎ 研修参加者 48名(内多職種研修WG関係者3名)：8グループ

※5名のファシリテーターが、11/26・12/4・12/11に事前準備を行い、研修当日最終打合せ後に研修にのぞみました。

※事前準備では研修内容の確認、プレゼンターとグループファシリテーターの打合せ、グループファシリの介入について検討し、プレゼンテーションに関しては「双方向性講義のためのスキルチェックリスト」を利用し、マイクロティーチングを行いました。

※今回は二つのグループを一人のファシリテーターが担当するという新たな経験もありました。

1・2 グループ担当：藪内きみのファシリテーター  
(鳥取市立病院)



3・6 グループ担当：平井慎哉ファシリテーター  
(河原あすなる居宅支援事業所)



4・7 グループ担当：金谷佳寿子ファシリテーター  
(地域でくらす会)



5・8 グループ担当：三澤京子ファシリテーター  
(鳥取市社会福祉協議会)



◆後半のワーク②のプレゼンテーション

間庭弘美ファシリテーター（鳥取市立病院 看護師）



○ ファシリテーターの振り返り自己評価（一部抜粋）

〈1. 2の内容は二グループを担当したことを踏まえて〉

1. ファシリとして良くてきたと思うこと、このままやっいてこうと思うこと

- ・あまり介入出来ず、見守りが殆どでしたが、声が聞こえない分、表情やしぐさを見ながら、グループに近づいたり離れたりにして見守りました。
- ・ワークの中身について介入することがほとんどできませんでしたが、討議の促進や、同じ人ばかり話していないか、時間を意識して進行できているか等の部分で介入ができました。
- ・アイスブレイク、ワークなどプレゼンターの説明を補足し実施を促した。
- ・ワークが目的からずれかけた時に調整した

2. ファシリとして今後努力を要すること、やり方を変えてみようと思うこと

- ・二グループを担当する事が今後あるか分からないけれど、どのような介入が出来るか、他のファシリテーターと話が出来たらと思いました。
- ・ワークの中に入り込まず、研修生一人一人を見て対応したい。

3. 研修参加者にとって何が・どんなことが一番よかったか

- ・グループワークでこれまでの経験の中で有効だった事を話された時、すごく良いねと褒めて、さすがだねと認め合い、こんな事も良いよねとさらに話しあう姿が見えた時、すごいなあと思いました。
- ・皆さんが自分ごととして考えておられた。
- ・ワークの中で、自己の職種での体験をもとに事例提供出来た事、グループ内で意見交換出来た事、意見の提供依頼を実施出来た事。
- ・看取りについて、他職種と意見交換し、自分の家族に対しても改めて考える機会になった等、新たな意見があった方もおられました。
- ・研修生が自分の思いを発言できた。そして、研修生個々の話を聞いて様々な思い考えがあることを理解し意見交換できたこと。

#### 4. 研修参加者にとって何が・どんなことが良くなかったか

- ・特になし

#### 5. 研修までの準備に関する感想

- ・講義の意図、ワークの意図を十分に把握しファシリする事が必要なこと、ワークの進行に有効なことが認識で来た。

#### 6. その他（感想・意見）

- ・研修参加経験のある参加者がいる事で、ワークがうまく進行された。発言してよい環境、意見交換できる環境がワークの中で整えられてきたのではないかと感じた。
- ・多職種でグループワークを行うと、沢山の気づきがあるので、毎回とても勉強になります。

#### \*研修前のミーティング\*



#### \*研修後振り返り後の集合写真\*

